連載 頑張る会員企業訪問記

お客様満足度最優先

信頼感で地域に根差す丁寧な家づくり

代表取締役
加藤 仁氏

加藤建設株式会社
（千葉県 南房総市）

Interview
Hitoshi Kato

温暖な気候に恵まれ、リゾートや老後の永住の地として注目を集める南房総。この地に根を下ろし、約90年。加藤建設は3世代にわたり地域に信頼される木造建築を続けてきた。

創業当初は小中学校の木造校舎や神社など、大規模木造建築の施工が中心だったが、およそ40年前の2代目社長の頃から木造注文住宅にシフト。職人仕事にこだわり、コスト削減に努め、お客様満足度を最優先し続ける「本気のシゴト」で地域の信頼を獲得し、口コミで受注を伸ばしている。地方の街ならではの独特のコミュニティが形成されている中にあって、地域からの信頼を長期間維持し続ける秘訣を探った。

職人技の活きた家を！

加藤建設がこだわるのは、木造軸組工法。長い歴史の中で改良を重ねられたこの工法こそ、わが国に最適の構造だと確信しているという。そう感じたきっかけは、ゼネコンで修業していた若かりし頃にさかのぼる。

今とは異なり、職人と泊まり込みで現場に立つことが当たり前の時代、現場に張り付く過酷な日々の中で目の当りにした職人たちの高度な技に感銘を受けた。

「日本の気候に合わせて育まれた工法を、熟練の職人だけが持ち得る手技で一工程ずつ大切にカタチにしていく。住まい手の一生を見守る家づくりは、そんな丁寧なやり方でなければならないと確信しました。」

先代から事業を受け継いだ後も木造軸組工法にこだわり、熟練の職人たちと共に高品質な家づくりに取り組み続けている。そのこだわりが高じて、建築スタッフとして社内にも職人を複数名おくようになった。以来、自らの目が十分に行き届く範囲に職人を置き、品質と技術の向上を追求させ続けている。

家づくりへの想いは建材にも現れ、柱は4寸角の無垢総檜を使用。柱に限らず、梁などすべてに無垢材を採用しているほどのこだわりようだ。「骨組である構造材がしっかりしていれば、メンテナンスや修理、リフォームなどでいつまでも住めることが、木造軸組工法の魅力。」熱っぽく語る社長の表情からは、ゆるがぬ信念がにじみ出ているかのようだった。

職人の高い技術でオリジナル造作建具にも対応

坪単価10万円ダウンのために

高品質な家づくりを追求しながら、その費用を削減する合理思考が加藤建設の基本だ。不透明な費用がまかり通る住宅業界において、明朗会計で低コストな家づくりを実現している。しかし、品質とコストは反比例しがちで、品質を求めれば当然コストはかさんでしまう。そのジレンマを解消したのは、1998年。一念発起した加藤社長は、坪単価10万円ダウンを目標に掲げ、コスト削減へのチャレンジに乗り出したのだ。

作業は、容易なものではなかった。まず、加藤社長は家づくりのシステムを根本から見直すことから着手する。従来も基本的に設計～施工の一貫体制を築いていた加藤建設であったが、基礎・外構・浄化槽工事など、一部外注に頼る工程があった。これらをすべて直営化することで、完全一貫請負体制を実現。同時に、現場で工数がかさんでいた建材の加工作業を協力工場でのプレカットへと移行し、施工コストの大幅削減を実現した。

加藤社長のコストカットはこれにとどまらない。メーカーや問屋、職人と協議の場を設け、徹底的合理化を議論。資材の直接購入や仕様・設備の統一化について同意を取り付けるとともに、経費をギリギリまで切り詰め、20～30%のコストダウンに成功したのである。結果、通常坪単価50万円以上かかる檜4寸角の住宅を、坪40万円台で提供することができるようになった。それも、一流メーカーの設備・部材、オール電化をフル装備するほか、確認申請や補償検査費用、消費税までも込みの価格である。高品質且つ低コストな住まいの陰には、計り知れないほどの努力が隠れているようだ。